

宮城からの発信！ 「仙台牛」の誇りと絆で震災復興



仙台牛を育てる誇りと、仲間の絆で風評被害払拭を果たした、「川村ファーム」と、仙台牛の美味しさを丁寧な仕込みで最大限引き出し、消費者へ提供している「やきにくグレート」を取材しました。

宮城県の誇り！仙台牛のルーツ

仙台牛の歴史

「仙台牛」の歴史は、昭和6年宮城県畜産試験場が、肉質の向上を図るために兵庫県から種牛を導入し牛の改良を手がけたことから始まります。

昭和49年には、肉質の向上を図るため兵庫県から「茂重波(しげしげなみ)」号という優れた種牛を導入したことにより、最高級品質の牛肉を作りだすことに成功し、現在の「仙台牛」の基礎が築られました。

「茂重波」号は、兵庫県の名牛といわれた「茂金波(しげかねなみ)」号の産子で、兄弟種雄牛も百数十頭を数え、全国各地で活躍したといわれています。現在出回っている「仙台牛」のほとんどがこの「茂重波」号の血統を引く息牛(そくぎゅう)です。肥育方法の試行錯誤の末、現在の高品質の「仙台牛」が確立されました。「茂重波」号が「仙台牛」の生みの親といっても過言ではありません。

4万頭以上の子牛を生産し、枝肉上物率(4・5等級に格付けされた枝肉の割合)70%という成績を上げ、県内和牛の質的改良に偉大な貢献を果たし、「仙台牛」の土台を築きました。

その後、スーパー種牛と称された「茂洋(しげひろ)」号が誕生し、枝肉上物率87%を記録しました。現在では、その後継牛たちが活躍しています。



仙台牛の味の魅力！

豊かな自然の恵みに包まれて・・・

まろやかな風味と豊かな肉汁

口当たりが良く柔らかで、まろやかな風味と豊かな肉汁が特徴です。脂肪と赤身の絶妙なバランスから生まれるその上質な食味は、宮城県の豊かな自然の恵みによって育まれています。

きれいな水と良質で豊富な稲わら

霜降り牛肉づくりには、きれいな水と良質で豊富な稲わらが欠かせません。

宮城はササニシキやひとめぼれなどをはじめとした全国有数の米どころであり、水は国土交通省が「水の郷」として、石巻市と七ヶ宿町を認定しています。

仙台牛は、その清らかな水で育った稲わらを贅沢に食べさせて育てています。また、宮城県は、秋の降水量が少なく、乾燥していることから良質な稲わらが生産されるため、北海道や関東・北陸まで流通しています。

仙台牛の定義

宮城県では、年間およそ25,000頭が食肉として出荷されています。そのうち仙台牛の名で出荷されるものは、そのおよそ5割です。

霜降りと赤身のバランス、きめの細かさなど厳しい基準をクリアし、最高ランクに格付けされた牛肉だけが「仙台牛」の称号を得ることができます。

「仙台牛の4つの定義」

- ・ 黒毛和種であること
- ・ 仙台牛生産登録農家が個体に合った適正管理を行い、宮城県内で肥育された肉牛であること
- ・ 本協議会が認めた市場並びに共進会等に出品されたもの
- ・ (公社) 日本食肉格付協会枝肉取引規格が、A5またはB5に評価されたもの



「水の郷百選～水と緑の文化をはぐくむ～」
(外部サイトへリンク) (国土交通省HP)

		歩留等級(肉が取れる量)		
		A	B	C
霜降り度合い等 (肉質等級)	良	A5 仙台牛	B5 仙台牛	C5 仙台黒毛和牛
	良	A4 仙台黒毛和牛	A4 仙台黒毛和牛	C4
	良	A3 仙台黒毛和牛	B3 仙台黒毛和牛	C3
	良	A2	B2	C2
	良	A1	B1	C1

牛肉の格付

特集2 牛肉(1) : 農林水産省 (maff.go.jp)

東日本大震災を経て

地震と津波で甚大な被害

東日本大震災では、畜産関係の被害は、地震による直接被害と津波による被害でした。畜産施設では飼料工場、食肉処理場、家畜市場、乳業工場など畜産関係施設が被災したうえ、家畜は、畜舎の倒壊により圧死、停電により凍死、津波により水死、飼料工場被災による配合飼料の入手困難等により餓死してしまいました。

放射性物質による稲わらの汚染

東日本大震災により福島第一原子力発電所の事故が発生し、大気中に放射線が放出された結果、宮城県に甚大な影響を及ぼしました。

事故後に収集された稲わらを給与した牛に暫定許容値を超える放射性セシウムが牛枝肉から検出されたのです。

宮城県の稲わらは品質が良いことから広く県外にも流通しておりましたが、流通が完全に停止したほか、事故前に収集された稲わらも含め、県内外から返品が相次いでしまいました。

牧草地の除染

このため、牧草地の除染対応を余儀なくされました。農家は自力での除染や、みやぎ農業振興公社へ委託して除染作業を進めました。中には傾斜地や石れきが多い土地などもあり、除染が困難な牧草地もありましたが、震災から約3年後の平成26年度末には、約9,140ヘクタール（95.6%）の草地除染を終了させました。その後、令和元年までにすべての除染が終了しました。除染が終了した牧草については、「粗飼料の放射性物質検査方針」に基づき検査されています。



復興に向けた取組

～安全と信頼の回復のために～

放射性物質対策

東京電力福島第一原子力発電所事故により、牧草地は放射性物質に汚染されましたが、懸命な草地除染作業を行い、作業を終えています。

さらに平成25年度からは、「粗飼料の放射性物質検査方針」を定め、草地除染後に生産された牧草の検査を行い、安全な牧草を利用することで、食品の基準値を超過しない安全安心な畜産物生産を推進していくことで、徐々に信頼を回復させていきました。

放射性物質のモニタリング検査

放射性物質のモニタリング検査を実施し、その結果を県および国のHPで公表しています。過去3年間、牛肉の基準値超過はありません。

生産者と消費者を 安全・安心で結ぶ架け橋に

「仙台牛レボリューションズ」は、JA全農みやぎの事業のひとつで、若手生産者の取り組みを推進し、仙台牛の価値を未来に繋ぐことを目的に発足しました。

生産者の経営安定と生産性の拡充をはかり、消費者の方が安全・安心で美味しい「仙台牛」を食べられるような生産を目指す活動をしています。



牧草の検査

仙台牛レボリューションズ

[仙台牛Revolutions - 仙台牛銘柄推進協議会 \(sendaigyu.jp\)](http://sendaigyu.jp)

メンバー加入の条件

1. 仙台牛生産者登録農家であること。
2. 宮城県内で肉牛肥育経営をしている担い手並びに肥育経営に従事している担い手であること。
3. JAグループ肉牛部会員であること。
4. 年齢が満50歳未満であること。



取組のご紹介

「川村ファーム」は厳格な基準で、風評被害を乗り越えた「仙台牛」を誇りに肥育経営

川村ファームの軌跡

～和牛去勢牛品評会の賞の常連～

川村ファームは、取締役 川村大樹さんの祖父の代から50年近く続く肉用牛農家です。現在、宮城県石巻市の最西端に位置する石巻農場の他4農場を有し、去勢の黒毛和牛を中心に全体で約900頭を肥育しています。

東日本大震災では、飼料タンクが倒れたり、停電等の物理的被害を受けましたが、県外の畜産農家や家畜市場等の支援を受けつつ飼育を続けていきました。

試練は、仙台の市場が再開した最初の出荷時でした。東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害で、市場の価格が大暴落してしまったのです。「宮城県の牛は…」と敬遠され、買ったたかれてしまう日々が続きました。しかし、全国のブランド牛の中で、A5またはB5格付けを得られないと「仙台牛」と名乗れないという日本一厳格な基準が、多くの料理人やバイヤーの信頼を回復、徐々に1年くらいで価格は戻ってきました。

こうした周囲との絆を支えに、たゆまぬ努力の結果、日本一の和牛を決める「全国肉用牛枝肉共励会」で、全国選りすぐりの約500頭もの中から、平成28、29年連続して最高賞である名誉賞を受賞し、**史上初の2連覇を達成**しました。この栄誉と功績が認められて、仙台市で開催された「第29回『仙台牛』の集い」で県知事から表彰されています。



知事から表彰を受ける川村さん



川村ファーム石巻農場

「川村ファームの仙台牛」が 美味しい理由①

※屠畜後の格付けにより「仙台牛」の名をもらえます



最高の成育環境

宮城県は、みやぎ米ブランドである「ひとめぼれ」をはじめ、全国第5位の作付面積を誇る稲作が盛んな県です。

冬の降雪が少なく、乾燥し、晴れた日が多いため、乾いた良質な稲わらがとれる環境にあります。

川村ファームの仙台牛はこの稲わらをお腹いっぱい食べています。

農畜連動型といって、牛が新鮮な稲わらを食べ、堆肥はまた田んぼに還元するという、牛と田んぼが密接に繋がった最高の環境があり、この環境が最高の仙台牛を育てています。

また、寒冷な地域では、温暖な地域の牛に比べて飼育期間が長い傾向にあり、この飼育期間の間に味がさらに濃厚になり美味しくなります。



川村ファームの仙台牛



稲わらロール

「川村ファームの仙台牛」が 美味しい理由②



牛に対する川村ファームの想い

牛を育てていく上で、しっかりコミュニケーションをとっていくことが大切です。常に体調と栄養バランスに気を配り、牛にやさしく、をモットーに、ストレスを感じさせないような最高の環境を心がけています。川村ファームでは、牛がリラックスできるように牛舎ではクラシック音楽を流しています。

また、増体と脂肪交雑（霜降り度合い）の向上のため、一般的に30ヶ月ほどの肥育期間を2～3ヵ月延ばします。そうすることで肉質のきめ、しまりを高めます。肥育農家の腕によって評価が変わるので、いかに能力を引き出せるかを考えて育てます。



リラックスした様子の牛たち



粗飼料



牛舎の様子

メッセージ

川村ファーム 取締役 川村大樹さんは、27歳の時にアパレル業界から家業を継ぎ、3代目として美味しい仙台牛を全国へお届けするために活躍しています！



受賞した枝肉

事務所にはトロフィーや賞状が並ぶ

石巻は海岸に近く、沿岸部で牛を飼育している農家も多く、津波で流されてしまった牛が数百頭といました。

また、石巻は東北の餌の拠点ですが、震災の影響で停電による配合飼料の製造・供給が困難となったりと壊滅的な被害を受けました。稼働再開に向けて、ダンプ10台ほど集めてトランスバッグ（餌袋）等の懸命な撤去作業をしました。牛1頭あたり餌1日10kg食べるところ、一時は2~3kgほどしか給餌できず、牛にとっても辛い日々が続きましたが、幸い稲わらは近くに豊富にあり、自身で購入した放射線測定機器で計測した上で牛に与えました。また、全国各地から多くの支援をいただいていたことができました。まさに絆を感じた日々でした。感謝しております。

震災直後の出荷は、風評で市場価格が下落し、苦しんだ時期もありましたが、仙台牛のブランドが早期の信頼回復となったと自負しております。引き続き、共進会、品評会に参加し、肥育技術向上に努めるとともに、全国の消費者交流会などで仙台牛のPR活動を積極的に行っています。

生産者一丸となって取り組んでいます。おいしい仙台牛を食べてください。